

森りょうじ リポート。(61号)

～ 皆さんと一緒に、森も動く。～

■ 地方が動く。

政治の世界では“地方の時代”と言われる今日。全国で知事・市長・地方議員の動きが目立ってきました。もちろんポピュリズム的な見方をする声もありますが、実際に現場に身を置く者として、国会議員や中央官僚がいくら「地方、地方」と騒いでも、現場の置かれた状態を適切に理解し、創意工夫をしていくのは、紛れもなく我々です。そしてそれを後押しする住民の協力が必要であり、その先には「地方の時代に相応しい地域像」が築かれるものだと感じています。

■ 森が動く。(閉会中の動きは?)

10/9の定例会の閉会后、次の定例会までの間は調査研究の期間でもあります。その中で活動の一つとして行政視察も行われます。会派、委員会、個人単位として次のような調査活動を行いました。

【会派「流政会」】 ※裏面特集

◎10/10-12：秋田（県議会改革）・盛岡（都市問題会議）

【都市建設委員会】

◎10/23-25：雲仙市（ファサード整備事業）、他2市

【個人】

◎10/26：地方議員研究会「教育基本条例について」

■ 第4回定例会のご案内(11/27-12/17)

平成24年最後の議会です。地域にどのような課題があり、どのような議論がなされているのか。皆さんが選んだ議員による議会活動にご注目下さい！

○1976年6月12日流山生まれ(36歳)

※サラリーマン家庭(父はNTTに勤務)で育つ

流山市立新川小、流山市立北部中卒業

日本大学第一高校、武蔵大学経済学部卒業

○2000年4月 大成建設株式会社に入社

○2003年4月 流山市議会議員に初当選(2,692票)

○2007年4月 千葉県議会選挙に挑戦(次点)

○2007年6月 シンクタンク東京財団政策研究員(2年間)

※世界や日本の地方政治・地方自治を研究

○2011年4月 流山市議会議員当選(二期目)

※市政史上の最高得票4,508票をいただきトップ当選

※政治理念はケネディ大統領の「国が何をしてくれるかではなく、自分が国のために何ができるか」。

趣味：政治(人と語る・駅頭)・読書・コミュニケーション

体型：身長159.5cm・体重55.0kg

後援会事務所：流山市中野久木559-2

討議資料

森が動く。

森りょうじ



流山市議会議員

最近読んだ本の一冊に東京市長や満州鉄道総裁などを務めた後藤新平氏の小説(学陽書房)があります。終生、党利党略に走ることなく政策本位で我が道を行く政治家でした。

また政界引退後は「自治三訣」と称し「人のお世話にならぬよう、人のお世話をしよう、そしてむくいをもとめぬよう」を説いて歩いたそうです。まさに政治家の本質を感じる人物像でした。

森が動く。

【第3回定例会・一般質問ダイジェスト】

断水事故問題について

5月に起こった断水事故後、どのような対応がなされたのか。また損害に対する賠償請求（今回の被害額は約2000万円）の見通しなどについて質しました。対策に関しては事故後、市民や議会から多くの指摘や要望の声があり、鋭意取り組まれている様子を確認できました。

一方、先の原因事故問題も同様ですが、このような事故に対し、被害時における対応の費用は皆さんからの税金によって補われるのが一般的です。しかし流山市は被害者であることを踏まえれば、加害者（企業）に対し、訴訟もしくは損害賠償を行っていくことは当然の姿勢と言えます。

当局からは“厳しい見通し”との答弁でしたが、あきらめることなく毅然とした姿勢で加害者に臨むよう指摘しました。

市長の政治姿勢について

地域主権への構造改革（議会だよりに掲載）と財政問題、人材育成について質しました。とくに人材育成の面では国や県との間で行われている「出向人事」に関するメリット・デメリットの認識を質問。情報収集や人的ネットワーク作りといった点でメリットがあるとの答弁でした。併せて今後の人材育成計画の中で出向制度を位置付けていく必要性を指摘しました。

地域諸課題について

江戸川台西～おおたかの森に繋がる道が開通して間もなく一年目が経ちますが、区間内で事故や交通渋滞が多発しており、その改善策についての再質問でした。

信号の周期改善などで交通渋滞緩和に取り組んだ他、事故対策としては危険箇所への信号設置や速度規制に向けて地元警察に要望しているとの答弁でした。

WebSite「森りょうじ」を検索！
また Twitter・Facebook も更新中！

森が動く。

【行政視察編】

“絆”とは何か？（10/12）

災害対策や地域再生というテーマの全国会議に今年は約1600名の市長・議員が集いました。また被災地での開催ということもあり、地元関係者からは地域復興への状況や課題に関する発言が目立ちました。陸前高田市長の講演は印象深く「“絆”とは関心を持ち続ける（被災地を忘れない）ことだと思う」との切実な訴えがあり、会場から大きな激励の拍手がありました。



地方議会の目指すべき姿とは？（10/10）

地方議員の特徴の一つに「兼業者」が多いことがあります。（私は専業）この点については様々な意見がありますが、法律的に認められているのが実際のところではあります。そこで私は議員の専門化を目指す一環として、国会と同じ「議会の通年化」を研究しています。

一般的に年間約80日程度（平均）の公務と言われる地方議員に対してはボランティア化を望む声もあります。一方、私は少数精鋭で、政策立案・監視に特化した議会組織を求めたいと考えています。地方の時代を迎える中で「地方議会の姿」も分岐点に差し掛かっています。

年4議会制から年2議会制へ移行した秋田県議会には様々なヒントがありました。



【連絡先】TEL & FAX: 7155-3236
Mail: ryoji612@peach.ocn.ne.jp